

四條畷市まちづくり長期計画（教育施設を含む）  
策定に向けたまちづくり意見交換会〔第3回〕

- 日 時：平成26年9月23日(火・祝)14:00～
- 場 所：サン・アリーナ 25 多目的室
- 出席者：31名

<質疑応答>

- ・非常に夢のあるプランである。教育環境整備については5月の広報ではPFI手法を活用すると記載されていたと思われるが、本日の説明を聞く限り、PFI手法はやめたのか？PFI法は改正により施設運営権を付与するとなったが、教育施設をPFI手法で整備した場合、誰が運営するのか？PFI手法を導入する際にはガイドンスはあるのか？民間活力とは非常に良い響きではあるが、PFI手法により民間の過剰な設計を生むのではないか、危惧されます。
  - ⇒PFI手法であったとしても限られた予算の中で行うものである。あくまでも一つの手法であり、今後の検討により定めていく方針です。
  - ⇒運営権の設定について、維持管理については民間委託する場合がありますが、学校の運営権を設定することは馴染まないの、教育施設については市が運営する方針です。
  - ⇒現在、PFI導入に関するガイドンスは行っていません。現在、事業化検討パートナーと検討を行い、PFI手法を導入することに至った場合にはガイドンスを行うことといたします。
  - ⇒過剰な設計費との指摘については、通常の場合とPFI手法の場合においてそれぞれ金額を出して比較し安価とする方法であり、過剰な設計とはなりません。
- ・通常の場合とPFIの場合を検討していくとのことですが、その検討に入る前にガイドンスが必要であると考えられます。ガイドンスは前もって知らせていただきたい。また、年間の予算の中でこれら取組みを行っていくことと思われるが、市民税の増加につながる心配である。子育て世代に嫌われる都市とならないか、他市へ人口流出とならないよう、コンパクトなまちづくりを行い、様々な人が係われるまちづくりを目指していただきたい。
  - ⇒市の施設についても建設から30年以上が経過している状況であり、耐震補強はしているが老朽化対策とはまた別であり、教育施設と同様である。長期的なプランをもって皆さまの意見を伺っているところである。
- ・説明会の周知について、もっと参加していただけるよう努力してほしい。広報だけでは周知したとは言い難い。長期計画について、短期を2020年と定めているが、今から6年

間では短すぎると思う。教育環境整備については重要な問題であり、幼稚園児の保護者から小中学校の生徒の声、先生の声をもっと聞いていただきたい。まちづくりについては、自然を活かした視点も踏まえてほしい。小規模校の解消については、市独自で35人学級を取り入れるなど検討をお願いしたい。

⇒説明会開催周知については、9月の広報だけでなく、8月に地区回覧やこどもに関連する団体や教職員、PTAの協力を得てお知らせ文を配布等している。

⇒まちづくり長期計画について、短期は学校再編、中期についてはハード整備、長期についてはもっと大きな課題であるJRや道路に着手するなど計画をしている。まずは、短期のスケジュールと予算を見ながら取り組んでいきたい。

⇒短期目標を2020年に設定していることについては、市民会議や各種団体と協議しながら進めており、ハード事業だけでなくソフト事業も含めて取り組む方針である。

⇒先生の声については、管理職を通じて聞かせてもらっております。実際の学校現場では、20代から30代の経験の浅い教員が増えており、教育委員会としてもサポートできるよう教育施設の整備を行いたいと思っています。現在、教員数は国定数に基づき、児童生徒数、学級数によって決まっているが、少人数学級を市で独自に実施すると、増員となる教員を市独自で配置しなければならないという課題があります。

⇒土井市長は就任後、桜の植樹や公園整備等、自然環境に配慮した取り組みも一方では行っております。

- ・東小学校が廃校となると母校がなくなる。地域から学校がなくなると子育て世代が居なくなる。このことから統廃合には反対します。子育て世代に充実したまちづくり計画を進めてほしい。民間は儲け主義であり、建物をつぶして建替える計画ではなく、その費用は別に使ってほしいと思います。行政の都合で子供たちが犠牲になることがあってはならない。小学校とは違い、中学校の統廃合は受験期等を考慮するとさらに慎重に計画する必要がある。また小中一貫校との説明にも無理があり、忍ヶ丘小学校は良いが、新小学校の児童は一貫校として使えないと思われる。

⇒教育環境整備については一定の選択をしていかなければならない。多くの意見を伺い、多くの方の賛同がいただけるよう計画を立てていきたいと思っています。

⇒中学校の転校については、計画が決まれば2か年を掛けて子供たちのケアを行っていく方針である。また小中連携・一貫について、新小学校についても教員引率のもと連携を図り、中学校で授業を受けるなど同様の経験ができるよう考えています。

⇒事業化検討パートナーから提案はいただき、民間のノウハウは活用するが、あくまで市が主導して取り組むことには変わりありません。

- ・都市計画が弱いと思います。市内には土地活用もされていない土地が多く、荒れた田畑も多い。まちを活性化させていく必要があります、若い方が四條畷市に入ってくるような施

策を出していただきたい。学校の統廃合は基本反対である。しかし、財政的な事情も分かります。より財政面から数値的に示してほしい。教育費は拡充を、公共施設は負担なくスリム化を図っていくべきである。例えば周辺施設との連携として、寝屋川市の小学校と連携を図ることも考えられる。またクラブ活動を外部委託するなど、教育費の拡充を求めます。

⇒市としても人口流出を如何に抑えるかは近々の課題であると認識している。特に子育て世代を如何に引き留めるか、魅力ある学校づくりも取組みの一つであると認識している。空閑地対策も含めて取り組むよういたします。

⇒財政面について、短期的取組みについては今年度中に検討を行い、収支見通しを示したいと考えております。

- ・ 2年前にもこのような説明会がなされ、JR 踏切を児童が渡る問題から様々な意見が出されたと思われませんが、今回も同様に JR 踏切の横断については課題として残っている。例えば中野新町、塚米、楠公から通学する場合の通学経路を示していただきたい。それと開催にあたっての周知方法について、すべての市民がホームページを見ることもできないと思われるので、広報や回覧、掲示板などで周知するとともに、近い将来の計画でもあり重要な内容であると思われるので、もっと具体的な内容で周知していただきたい。

⇒周知方法につきましては、数多くの意見を頂いておりますので、改めて検討を行う次第です。通学路については平成 24 年の意見を考慮し、米崎踏切を渡ることがないよう設定をしていきたいと考えている。現時点の案といたしましては、中野新町、塚米、楠公を南北に二分し、北側については国道 163 号の側道から東へ、南側については後戸川踏切を渡る計画としております。また経路上の課題については人的配置も含めてより安全な通学路となるよう検討していきます。

(以上)